

① 午後(后) ② 通る ③ 野原

④ 強力 ⑤ 正直

2
1 X
エ
Y
イ

2 I
ア
I
ギ
II
す
き

3 I
に
おい
II
仲間

4 [完答]
A
ア
B
ウ
5 I
2
II
2
III
1

3
1 ギ
つ
くり
ご
し
2
お
休
み

3
菜
央
の
お
ば
あ
ち
や
ん

4 エ
5 ア
6 ウ

7 ⑦
が
8 ⑧
よ
[完答]
8 A
イ
B
エ
C
ウ
D
ア

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「午」は、たてぼうがつき出ると「牛」という別の字になってしま
うので気をつけよう。②「通」のしんによは二画目と三画目をつなげてわっかができてしまわないように気をつけよう。③「野
原」は草などが生えた広い平地のこと。④「強」の「ゆみへん」は三画で書く。「ム」や「虫」の部分も、最後の二画をつなげ
て書かないように気をつけよう。⑤「正直」は正しくてうそやいつわりのないこと。

②

- 1 次の段落に「かれら（アリヅカコオロギ）はアリの巣を見つけ出し、平然と入りこむ」とあった。また、アリの巣に入っ
たコオロギは「巢内のエサやアリの卵などを好きに食い散らかす」と本文の最後にあった。
- 2 「この侵入者」とはアリの巣に入りこむ「アリヅカコオロギ」であり、直前に「あまりにもすばやいため」とある。字数に
合うように、前の文の「すばやい動き」をぬき出そう。
- 3 次の文に「すなわち」とあり説明が続いているので見ていこう。アリヅカコオロギがアリにさわってアリのにおい成分を自
分の体につけると、自分の仲間を以て認識するアリは、アリのにおいがついていているコオロギを自分の仲間だと思っ
てしま
うという内容があった。
- 4 問3で確認したように、コオロギがアリの仲間のふりをするため、アリはコオロギをよそ者と見ぬくことができな
いのであ
る。
- 5 I 「冬になって食べ物なくなるとアリの巣へ行き、助けを求める」のはアリとキリギリスという童話の話であり、現実
のキリギリスはそのようなことはしないと本文にあった。
II 「アリヅカコオロギは一生翅が生えず飛びも鳴きもしない」とあった。
III 本文の最後に「コオロギは巢内のエサやアリの卵などを好きに食い散らかす」とあった。

③

- 1 「おばあちゃんが、①になっちゃって」「おばあちゃん大変だね」とあるので、「どうしたの
だろう？」と疑問を持
って読み進めよう。続く部分で菜央が「ぎっくりごし」の説明をしていた。
- 2 問1と同じように疑問を持って読み進めていくと、「お店はしばらく休みたい」と菜央が言っていた。字数に合うように
さらにさがしていこう。
- 3 登場人物を整理しながら読み進めよう。「ぼく」が「アユミさん」と呼んでいるのは、ぎっくりごしでお店を休むことにな
った「菜央のおばあちゃん」である。
- 4 ギっくりごしになってしまったおばあちゃんの話をしている場面である。おばあちゃんを心配する表情になるものをえら
ぼう。
- 5 「くっばなし」とは、その動作が続いている様子を表す。
- 6 「お店はしばらく休む」と聞いたぼくが、「おもわず大声を出してしまった」場面である。
- 7 ⑦「残念がる」ということばに対して「うちも」と言っているため、「残念がる」と同じような意味の「がっかりする」
になる。
- ⑧ 直前に「そんなに松丸堂を」とあるのでさらに前を見ると、みんなが松丸堂のたい焼きが好きでよく買っているという会話
をしている。「たよりにする」とは、支えにしていたよっていているということである。
- 8 「 A 「は直前の「菜央のお母さんかお父さんは、手伝えないんだっけ？」に対して「うん、無理なんだよね」
と答えているイがはいる。」 B 「はイに対して「そうだよね、ひとりやってるもんね」と答えているエがはい
る。アの「いい考え！」はウの「アルバイトを募集する」ということばに対して言っていると考えられるので、「
C 「にウ、」 D 「にアがはいるとわかる。」